‘星空舞’栽培におけるレンゲすき込み量が2tまでに適用拡大されます

概要

‘星空舞’栽培において、**レンゲを基肥**として利用する場合、生草量が**1～2t/10a**であれば、葉色診断による穂肥施用が可能であり、目標とする収量**500kg/10a**、食味値**80以上**及び整粒率**70％以上**を確保可能である。

背景・ねらい

○レンゲ生草量の制御は天候やほ場条件など様々な要因により**難しい。**

○生草量の適用拡大（**2t/10aまで**）により、生産現場における利便性向上を図る。

穂肥施用は葉色診断が有効

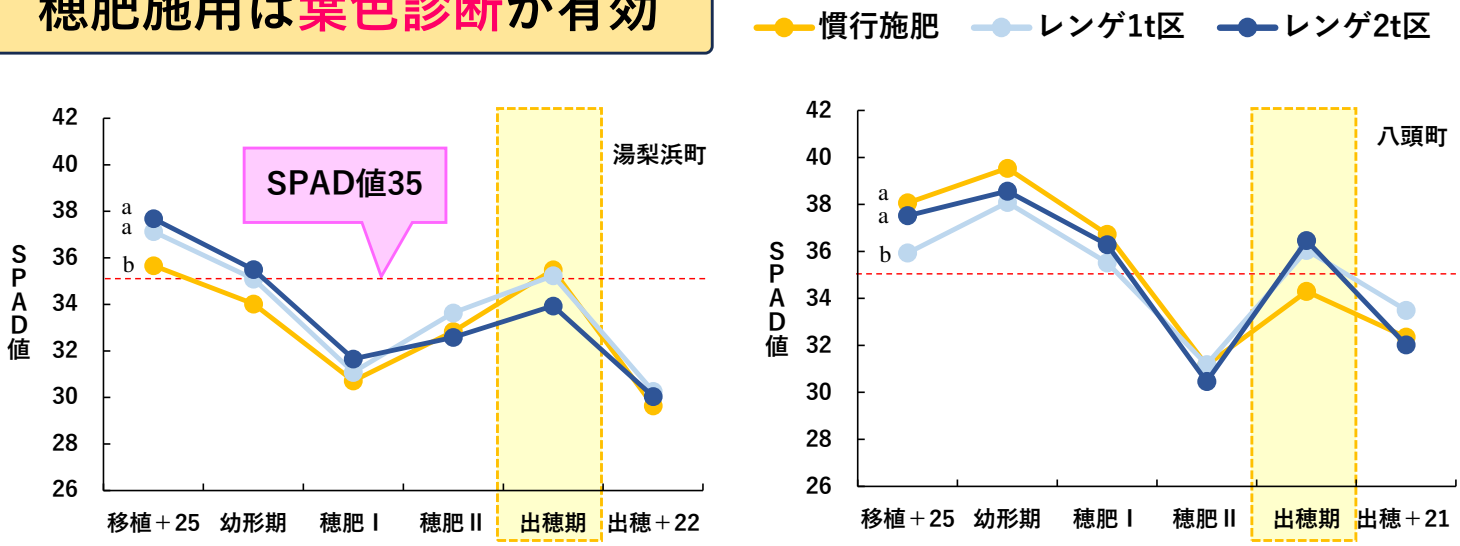

図１　レンゲすき込み量が葉色の推移に及ぼす影響

葉色診断に準じて穂肥を施用することで、収量と食味値の両立が可能な出穂期葉色（SPAD値で35程度）に誘導可能

生育と収量は慣行栽培と同等

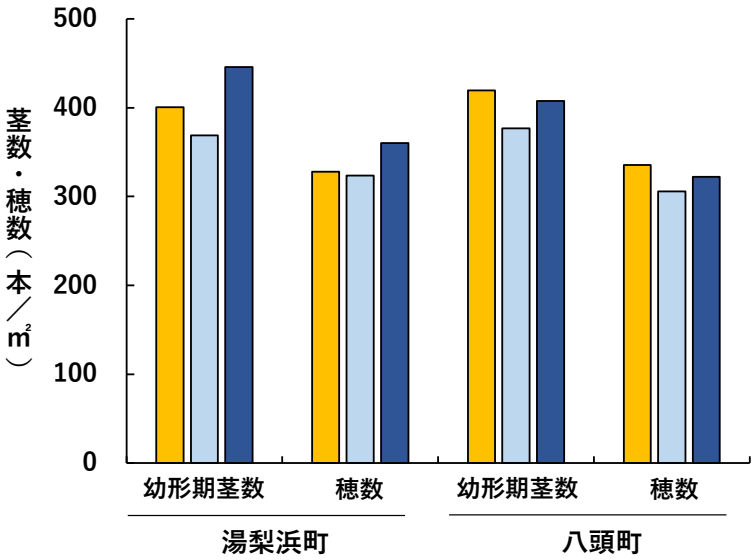

図２　レンゲすき込み量が茎数・穂数に及ぼす影響

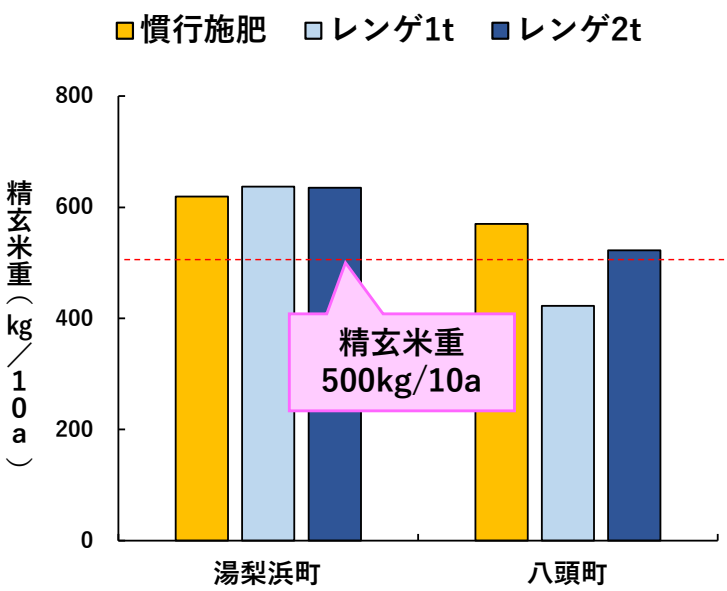

図３　レンゲすき込み量が精玄米重に及ぼす影響

整粒率と食味値は慣行栽培と同等

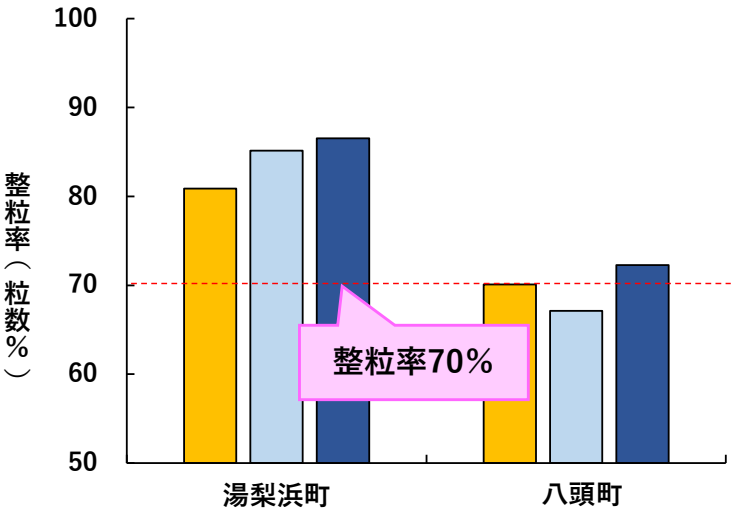

図４　レンゲすき込み量が整粒率に及ぼす影響

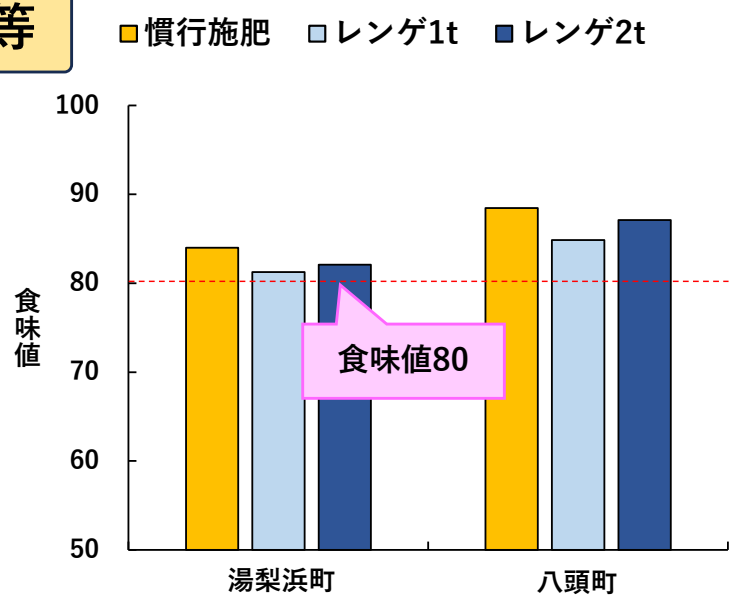

図５　レンゲすき込み量が食味値に及ぼす影響

共通注釈

○多重比較検定（tukey法）を行い、異なるアルファベット間で5%水準の有意差あり。
○精玄米重および食味値は水分15%換算で示した。
○レンゲすき込み時期は湯梨浜町：移植22日前、八頭町：移植33日前である。

利用上の留意点

○レンゲ生草量を安定させるために、溝切り等の排水対策を徹底する。
○すき込むレンゲ生草量は2t/10aまでとし、移植20日前までに鋤込む。化成肥料（基肥）は無施用とする。
○レンゲ生草量が多くなりすぎた場合はすき込み時期を早めるとともに、中干しを十分に行うことで土壌中の過剰な窒素を低下させる。
○栽培期間中はガス湧きが多くなるため、2～3日の落水によりガス抜きを行う。
○穂肥葉色診断は以下の通りとする。穂肥Ⅰ時期（幼穂長8～10mm）の葉色がSPAD値35未満で2kg/10a施用、穂肥Ⅱ時期（穂肥Ⅰの8日後）の葉色がSPAD値32以下で2kg/10a、32～35で1kg/10a施用。
○本情報は2024年に湯梨浜町（細粒質泥炭質グライ低地土）、八頭町（細粒質普通低地水田土）で調査を行った結果である。

（問い合わせ先）　鳥取県農業試験場 環境研究室　　TEL：0857－53－0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい